

みんなで考える防災のこと

防災士に聞いてみました!

防災士ってどんな人?

資格を取得される主な目的

民間資格のひとつで、近年の防災への関心の高まりから資格を取得される方が増えています。

- ①ご自身やご家族の防災知識向上のため
 - ②地域での防災啓発などの活動
- 市内では222名(4月1日時点)の方が取得されています。

市からも資格取得へ支援

市の防災力向上のため、研修講座の受講料、講座に使用するテキスト代、資格取得受験料など取得するための費用のほぼ全額を市が補助します。
※資格取得には概ね6万円程度(滋賀県の防災士養成講座は概ね1万円程度)

●問合せ：危機管理課 Tel)69-2103 Fax)63-4619

詳しくは市ホームページ



防災士 中島 仁史さん (土山町)

知っておくことなど、『自助』の行動が基本です。『共助』である地域の自主防災組織としての活動も行っておく必要性を感じます。特に災害時での犠牲者の多くは高齢者や障がいのある方など自力での避難が難しい避難行動要支援者となります。地域でそうした災害要支援者が避難するための個別計画を作り、日頃から見守りや避難訓練に活用することができれば災害に強い地域になります。

最も大切な地域での防災活動は、自主防災組織だけに任せるのではなく、民生委員、消防団、日赤奉仕団、防災士などと、みんなで力を合わせて防災活動に取り組むことです。

防災士は、防災活動においてとりわけ大きなことができるわけではありません。みんなが少しの知識や情報を出し合い、災害と向き合う、それが災害への最大の武器になると考えています。災害を考えると地域をつなぐのをもう一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

やっぱりたどり着くのは地域のつながりですね

「自宅では災害時の持ち出し品をリュックに入れ寝室に置いてあります。また水や缶詰、レトルト食品など備蓄食料も準備しています。加えて寝室のタンスには転倒防止器具も設置し地震に備えています。

防災士の活動のひとつに地域での防災啓発があります。私の地域(あずま自主防災会)では、防災マップの作成や避難所の配置、運営計画などを作り、コロナ禍での避難訓練も行いました。」

自助→共助でより強い地域に

“自分の命は自分で守る”一人ひとりが日頃から災害時に備え、持ち出し袋の準備や緊急での避難所を

防災士 西田 くみ子さん (甲賀町)

防災のことを考える方が一人でも増えるように

「家では持ち出し袋、特に水や食料の備蓄を心がけています。飲料水とは別に生活用水にも使えるように2ℓのペットボトルを常に10本、洗濯室に置いてあります。毎日2本程度を使用した後、補充しておきます。

避難所では、特に女性はトイレを我慢してしまうので簡易トイレはもちろんですが、紙パンツやパットを防災袋に準備しておくことをお勧めします。また、食料の備蓄にはやはり“ローリングストック”ですね。消費期限の近いものから順に食べた後、買い足して保存しておくという方法です。最近はいろいろと防災食が充実していますが、普段食べているものがいざというときは一番良いと思います。」

防災士へのきっかけは被災地で

「広島や熊本へサポートに行ったとき、県外者として少し警戒される中、防災士のベストを着ている方には被災者自らが声をかけている姿を目にしました。



また被災地では泥かき以外にもサポートできることが他にもいっぱいあることを学びました。例えば普段使っていたお茶碗や鍋などを運び出してきたとき、すごく安心し喜んでいただいたことがありました。

被災時には寄り添い、話を聞くだけでもサポートになるという経験が今の私の原点です。

防災士と聞くと、防災のスペシャリストと思われる方がおられます。防災士とはとりわけ何か大きなことをするという人ではありません。みんなで地域の防災のことを考える人が一人でも増えていくことを願っています。」

敵を知れば自分の行動もわかる!

秘術1

エリアメール

市が避難情報警戒レベル3(5)を発表するときや気象庁が緊急地震速報や大雨特別警報などを配信したときに、市内に存在する携帯端末を警報音とともにお知らせするものです。

秘術2

あいこうか緊急メール

気象情報に加え、地震・土砂災害や避難情報などを配信します。英語、ポルトガル語などの多言語配信にも対応していますのでみんなが安心です。

秘術3

市公式LINE

現在登録者数は1万人を超えています。市から情報と併せて防災情報も配信中です。ぜひ登録しておきましょう。

秘術4

しらがメール・しらがLINE

滋賀県から防災・防犯などの安心安全に関する情報を配信中です。雨量情報なども配信されます。

事前登録は必要ないよ!

秘術5

音声放送端末・屋外拡声器

屋内に設置された端末や屋外に設置されている拡声器へ、緊急でお伝えしたい情報を放送します。

避難には準備と予測から

台風が発生する時期も早まり、大雨による災害が心配される季節です。安全な避難行動は普段から自分の行動をいかに予測できているかで大きく左右されます。就寝している時、勤務中の時、学校にいる時、自分や家族の行動は予測し準備することができます。

自分や家族がどのような状態であっても、安全に避難行動に移せるように日頃からどのように行動するのか「マイタイムライン」の作成を通じて考えるきっかけにしましょう。

